



令和2年6月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 西伊豆町仁科に産地直売所「はんばた市場」オープン

5月22日に西伊豆町仁科に産地直売所「はんばた市場」がオープンしました。はんばた市場では、主に西伊豆産の農水産物や加工品、花卉などを販売しています。直売所に並ぶ水産物というと鮮魚が一般的かと思いますが、はんばた市場では「活魚」のラインナップが充実しており、西伊豆町の特産であるスルメイカや、地元定置網で漁獲されたイサキやヒラメなどが並びます。また、急速凍結したスルメイカや地魚の切り身、地魚を使った総菜も販売しており、こちらも売れ行きが良いとのこと。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、観光客の来客数が伸びず、厳しい状況ではありますが、感染拡大防止策を徹底しながら運営にあたっているとのこと。

解説：「はんばた」とは、西伊豆地区で浜・海辺を意味しています。



↑はんばた市場の外観（上）、充実した活魚コーナー（左）、急速凍結品コーナー（右）

## 田牛地区でカジメ磯焼け調査

2017年8月に発生した黒潮大蛇行は現在も継続中です。伊豆半島沿岸では黒潮大蛇行に伴いカジメ磯焼けが発生することが知られているため、現場ではカジメ群落の状況を調査しています。5月15日に下田市田牛地先にて、潜水調査を行いました。その結果、ほとんどのカジメは葉が消失して茎だけになっていましたが、幼体は岩盤に多く着生していました。今後、この幼体が夏を越えられないと磯焼けが発生する恐れがあります。



←茎だけになったカジメ

解説：磯焼けは海藻群落（藻場）が著しく衰退・消失する現象で、海藻を餌にするアワビなどにも影響する。

## 熱海地区でヒラメの中間育成・放流

大熱海漁協という漁協網代支所では、4月28日に県温水利用研究センターから35mmのヒラメ稚魚を受入れて中間育成を開始しました。その後、約3週間の飼育により放流に適した60mmに成長したことから、熱海では5月19日、網代では5月21日に放流が行われました。放流尾数はそれぞれ約1万尾でした。放流魚が成長して、各地区の漁獲量が増加することを期待しています。



↑船の上から放流されるヒラメ稚魚（網代地区）

**6月の予定** ●伊豆各地でマダイ種苗の中間育成が始まります。 ●キンメダイ種苗生産の親魚採集を行います。 ●今年の天草作柄予察を発表します。 ●テングサの養殖試験を始めます。

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。